

# 令和4年度 行政評価調書

## ■ 施策の概要

(第7次総合計画 基本計画 P.82～83)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ2 誰もがいきいきと健やかに暮らせるまち(市民福祉)		
施策名	2-2 高齢者福祉		
所管部	福祉保険部	関係部	産業港湾部
この施策の 目指すべき姿と その展開方向	<p>(第7次総合計画 基本構想 P.36)</p> <p>高齢者の社会参加が促進され、いきいきと自立した生活を送ることができ、可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくりを目指します。</p> <p>このため、健康づくりや介護予防、生きがいつくりの取組と生活支援サービスの充実を図るとともに、医療・介護などが連携して、高齢者の生活を地域全体で支える「地域包括ケアシステム」の構築を進めます。</p>		
市民アンケート 指標	介護予防事業などの高齢者サービスが充実していると感じている市民の割合 (65歳以上の方がいる世帯)	基準値 38.4%	目標値 基準値より増

## ■ 施策の内容(小施策)

(第7次総合計画 基本計画 P.82～83)

小施策 及び 指標	(1) 健康づくりと介護予防の取組の推進		基準値	目標値
	指標	地域版介護予防教室回数	584回	600回
	(2) 地域包括ケアシステムの深化に向けた高齢者を地域で支える仕組みづくりの推進		基準値	目標値
	指標	認知症サポーター養成講座回数	18回	50回
	(3) 高齢者の生きがいつくりの推進		基準値	目標値
	指標	老壮大学の定員に対する受講生の割合	72.5%	80.0%

# 令和4年度 行政評価調書

## ■施策の評価(一次評価)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ2 誰もがいきいきと健やかに暮らせるまち(市民福祉)				
施策名	2-2 高齢者福祉				
所管部	福祉保険部	関係部	産業港湾部		
市民アンケート 指標	介護予防事業などの高齢者サービスが充実していると感じている市民の割合(65歳以上の方がいる世帯)	基準値	令和3年度	令和5年度	目標値
		38.4%	36.9%		基準値より増
市民アンケート 指標の推移	△	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない ー:判定不能(実績値なし)			
各小施策の 指標の推移	指標	基準値	実績値	推移	目標値
	(1) 地域版介護予防教室回数	584回	418回	△	600回
	(2) 認知症サポーター養成講座回数	18回	8回	△	50回
	(3) 老壮大学の定員に対する受講生の割合	72.5%	78.5%	◎	80.0%
指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)					
【一次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	C-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う		
総評及び今後の 具体的方針 ほか特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策に対する市民アンケート指標や、小施策(1)～(2)の指標については推移が不調であるが、新型コロナウイルスの影響下においても、感染状況を見ながら事業を停止することなく実施していくことが出来た。</li> <li>・小施策(1)については、感染予防対策を徹底しながら市民、行政ともに連携し介護予防を推進していく。</li> <li>・小施策(2)については、認知症に関する理解促進を目的に、関係機関と連携し認知症サポーター養成を推進していく。</li> <li>・小施策(3)老壮大学については、会場確保や新型コロナウイルス感染症対策の都合上、令和4年度から教室数や定員を削減した。当面は現在の教室数、定員を維持して事業を継続し、受講者数等の経過を観察しながら、今後の老壮大学の在り方について検討していく。</li> </ul>				

## ■有識者会議による点検 ( 対象 非対象 )

点検結果	
------	--

## ■施策の評価(二次評価)

【二次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	C-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う
上記特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各指標の推移等は、一次評価のとおりと考える。</li> <li>○小施策(1)の地域版介護予防教室の開催については、コロナ禍において通常開催が難しい中でも、令和3年度は令和2年度の開催回数を上回っており、引き続き感染防止対策を取りながら、事業の推進に努めること。</li> <li>○小施策(2)の認知症サポーター養成講座については、小施策検討シート(2)に記載のとおり、オンライン開催の拡大等、コロナ禍に対応した開催方法の工夫に努めること。</li> <li>○小施策(3)の老壮大学の今後の在り方の検討に当たっては、生涯学習に関する他の施策の取組、市民の自発的なサークル、民間の生涯学習に関する講座などの連携も考慮すること。</li> </ul>		

# 令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (1)健康づくりと介護予防の取組の推進

(第7次総合計画 基本計画 P.82)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	地域版介護予防教室回数		平成30年		584回	600回		
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	563回	253回	418回			
主な取組	<p>○介護予防に関する普及啓発(福祉保険部福祉総合相談室)</p> <p>★地域版介護予防教室、地域住民が集うサロン等、介護予防のための通いの場の充実(福祉保険部福祉総合相談室)</p> <p>○地域包括支援センターによる相談支援体制の強化(福祉保険部福祉総合相談室)</p> <p>○高齢者の健康診査などの保健事業の取組(福祉保険部保険年金課)</p>							
<b>主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)</b>	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 地域住民グループ支援事業費(02816)		② 1,389 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室		
		④ 地域版介護予防教室や地域住民が集うサロン等の住民運営の通いの場を充実させ介護予防の取組を推進することを目的に助成金の交付等を行う。						
		⑤ 助成件数 令和元年度 24件 令和2年度 25件 令和3年度 23件						
	2	① 介護予防サポーター養成事業費(02817)		② 505 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室		
		④ 高齢者が主体的に介護予防に取り組むことができる環境づくりを推進するため、市民ボランティアの介護予防サポーターを養成する。						
		⑤ 養成人数 令和元年度 21人 令和2年度 6人 令和3年度 17人						
	3	① 介護予防普及啓発事業(02814)		② 647 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室		
		④ 高齢者自らが健康づくり、介護予防に取り組めるようにすることを目的に事業を実施。						
		⑤ 令和元年度 16回、延べ1,161人 令和2年度 6回、延べ435人 令和3年度 7回、延べ282人						
	4	① 地域包括支援センター運営事業費(01725)		② 119,250 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室		
		④ 高齢者が、住み慣れた地域で尊厳ある生活を継続できるよう、心身の健康維持、生活の安定のために必要な相談・援助を行うことにより、保健医療の向上や福祉の増進を包括的に支援することを目的に設置。						
		⑤ 委託料 東南部 30,000千円、南部 30,000千円、中部 29,250千円、北西部 30,000千円						
	5	① 地域包括支援センター運営協議会経費(01724)		② 127 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室		
④ 地域包括支援センターの設置・運営・評価等に係る必要な事項を審議し、センターの公正・中立的な運営を図ること、また、地域における介護保険以外のサービス等との連携体制の構築その他の地域包括ケアに関する事項を協議することを目的とする。								
⑤ 令和3年度は2回運営協議会を開催(対面及びオンラインによる開催、書面開催)								
6	① 後期高齢者医療健康診査事業費(03627)		② 19,312 千円		③ 福祉保険部保険年金課			
	④ 高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、後期高齢者医療制度加入者を対象に、今後の健やかな暮らしのために、生活習慣病の早期発見と生活機能の維持増進(フレイル予防)を目的とした健診を実施。							
	⑤ 受診率 平成29年度 8.92% 平成30年度 8.60% 令和元年度 8.65% 令和2年度 7.59% 令和3年度 9.14%							
7	① 後期高齢者医療歯科健康診査事業費(02976)		② 6,329 千円		③ 福祉保険部保険年金課			
	④ 高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、後期高齢者医療制度加入者を対象に、口腔機能の低下や誤嚥性肺炎等の疾病の予防を目的とした歯科健診(歯の状態、かみ合わせの状態など口腔内検査)を実施。							
	⑤ 受診率 平成29年度 5.80% 平成30年度 6.21% 令和元年度 5.51% 令和2年度 5.06% 令和3年度 5.85%							
8	① 保健・介護一体的実施推進事業費(04215)		② 573 千円		③ 福祉保険部保険年金課			
	④ 市内の日常生活圏域(4圏域)ごとに、ハイクラスアプローチとポピュレーションアプローチを組み合わせた高齢者の保健事業と介護予防を一体的に行うことにより、健康寿命の延伸をめざす。(10/10)							
	⑤ 令和3年10月開始 令和3年度:実施圏域1圏域、健康教育等実施教室3か所							
指標推移の要因等	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、地域版介護予防教室等の通いの場の実施が困難な状況が続いているが、感染予防対策を徹底して開催回数を確保したことにより、令和2年度よりも改善することができた。</p> <p>・指標の目標回数を目指していくために、介護予防サポーターに介護予防の意識啓発を図り、感染予防対策を徹底した通いの場の開催、文書等で「つながる支援」の実施、介護予防サポーターの養成継続が必要である。</p>							
令和4年度の取組状況	<p>&lt;指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等&gt;</p> <p>令和3年度の取組を継続</p>							

<b>指標推移への対応方針</b> <b>(令和5年度以降)</b>	<指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針>	
	<b>1</b>	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う
1.地域版介護予防教室やサロン等の通いの場の介護予防の取組を推進するため、助成金交付を継続する。 2.住民主体の介護予防の取組を推進するため、介護予防サポーターの養成を継続する。 3.高齢者自らが介護予防・健康づくりに取り組めるよう、今後も関係機関との連携を進める。		

# 令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (2) 地域包括ケアシステムの深化に向けた高齢者を地域で支える仕組みづくりの推進

(第7次総合計画 基本計画 P.83)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
		認知症サポーター養成講座回数		平成30年		18回	50回
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
			25回	6回	8回		
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 → ◎、実績値 < 標準値 → △)				
主な取組	<p>○住民主体の支え合い活動の促進をはじめとする生活支援体制の充実(福祉保険部福祉総合相談室)</p> <p>○医療・介護等多職種による連携体制の構築(福祉保険部福祉総合相談室)</p> <p>★認知症の人の地域の見守り体制の構築と家族への相談支援の充実(福祉保険部福祉総合相談室)</p>						
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 認知症高齢者見守り事業費(01733)		② 133 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室	
		④ 地域における認知症高齢者の見守り体制を構築するため、認知症に関する広報・啓発活動、認知症についての正しい知識を持って見守りを行うボランティアの養成などを行う。					
		⑤ 養成回数 令和元年度 25回 604人 令和2年度 6回 100人 令和3年度 8回 87人					
	2	① 認知症総合支援事業費(02808)		② 4,964 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室	
		④ 認知症施策の推進・強化により、認知症高齢者が尊重されながら住み慣れた地域で生活を継続できるようにすることを目的に事業を実施する。					
		⑤ 認知症初期集中支援チームの設置 令和元年度～令和4年度 4チーム設置 チームの対応事例件数 令和元年度 4件 令和2年度 1件 令和3年度 5件					
	3	① 認知症地域支援・ケア向上事業費(02940)		② 4,938 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室	
		④ 認知症の人の医療、介護、生活支援サービスに関するネットワークを形成し、認知症の人に対して効果的な支援が行われる体制を構築するとともに、認知症ケアの向上を図るための取組を推進する。					
		⑤ 認知症カフェの開催団体に補助金を交付 令和元年度 7団体 令和2年度 6団体 令和3年度 5団体					
4	① 生活支援体制整備事業費(02807)		② 10,380 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室		
	④ 生活支援コーディネーター及び協議会の設置により、高齢者の生活支援サービスの充実・強化を図るとともに、地域包括ケアシステムの構築、深化を目指す。						
	⑤ 協議会の開催 令和元年度 2回 令和2年度 2回 令和3年度 1回 講演会(セミナー、講座)の開催 令和元年度 1回 令和3年度 2回						
5	① 地域包括ケア会議経費(01723)		② 173 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室		
	④ 地域包括ケアシステムの構築、深化のために地域ケア会議を開催し、高齢者への包括的かつ継続的な支援体制を構築する。						
	⑤ 地域包括ケア推進会議の開催 令和元年度 1回 令和3年度 2回 地域ケア個別会議の開催 令和元年度 25回 令和2年度 18回 令和3年度 約40回						
6	① 在宅医療・介護連携推進事業(02552)		② 6,870 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室		
	④ 地域包括ケアシステムの構築を図るため、在宅医療と介護サービスの一体的な提供及び医療機関と介護サービス事業者などの関係者の連携等を推進する。						
	⑤ 令和3年度に在宅医療・介護連携の提供体制構築のため研修会やアンケートを実施。医療・介護サービスの情報共有の支援として、会議や説明会を実施。在宅医療・介護連携に関する相談支援の窓口を地域包括支援センター4か所に設置。						
指標推移の要因等	新型コロナウイルス感染症の影響により、外出の自粛や集まることへの抵抗感が増した状況が継続していることから、コロナ禍以前と比べて開催の依頼が少なかった。						
令和4年度の取組状況	<指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 学校や町内会など地域に認知症サポーター養成講座の周知を実施						
指標推移への対応方針 (令和5年度以降)	<指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針>						
	1	<p>1: 各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2: 予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3: 予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p> <p>・コロナ禍が落ち着いてきたことによる講座の再開</p> <p>・利便性向上のためのオンライン開催の拡大</p>					

# 令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (3)高齢者の生きがいづくりの推進

(第7次総合計画 基本計画 P.83)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
	老壮大学の定員に対する受講生の割合		平成30年		72.5%	80.0%	
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			65.0%	62.7%	78.5%		
指標推移	◎	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 → ◎、実績値 < 標準値 → △)				
主な取組	<p>○老人クラブなどと協力し、高齢者が地域の福祉活動に積極的に参加するための支援(福祉保険部福祉総合相談室)</p> <p>○生きがいづくりのための交流や学びの場の確保として、老壮大学等の活動支援(福祉保険部福祉総合相談室)</p> <p>○ふれあいパス事業の継続(福祉保険部福祉総合相談室)</p> <p>○シルバー人材センターの活動を支援するなど、高齢者がその能力を十分に発揮できるよう、多様な雇用・就業機会を確保(産業港湾部商業労政課)【共3-7雇用・労働】</p>						
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 老人クラブ連合会補助金(406)		② 5,057 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室	
		④ 老人クラブ連合会の運営の安定を図り、自主活動を推進させ、かつ事務局体制を強化拡充することにより、高齢者の生きがいと健康づくりに資する。					
		⑤ 補助額 令和2年度:5,281千円、令和3年度:5,077千円					
	2	① 老壮大学運営委員会補助金(398)		② 1,000 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室	
		④ 概ね60歳以上の市民を対象に、生涯学習を通じて心身共に健康の増進を図る場として、昭和40年度から開設している。					
		⑤ 学生数 令和2年度:188名、令和3年度:146名					
	3	① ふれあいパス事業費(3974、3975)		② 172,203 千円		③ 福祉保険部福祉総合相談室	
④ 70歳以上の市民に対し、社会参加・生きがいづくりの支援を目的とした公共交通利用の助成事業。							
⑤ 交付者数 令和2年度:24,078名、令和3年度:25,177名							
4	① シルバー人材センター事業費補助金(741)(共3-7)		② 11,300 千円		③ 商業労政課		
	④ 高齢者の職業の安定その他福祉の増進を図るとともに、経済及び社会の発展に寄与することを目的とし、高齢者就業機会確保事業(シルバー人材センター事業)に要する経費の一部を補助する。						
	⑤ 受託事業、労働者派遣事業、会員の入会促進事業、就業機会の拡大事業、会員の技術・技能の平準化やレベルアップ事業						
5	①		② 千円		③		
	④						
	⑤						
指標推移の要因等	・新型コロナウイルス感染防止を目的とした、ソーシャルディスタンス確保のため、定員数の削減を実施した。そのため、定員に対する受講生の割合は増加しているが、学生の実人数としては、前年より減少している。						
令和4年度の取組状況	<指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 令和4年度からこれまで使用していた教室が使用できなくなったことにより、各講座での利用教室を変更したが、十分な広さの教室を確保できず、その上でソーシャルディスタンスの確保が必要となるため、定員数をさらに減少させている。						
指標推移への対応方針(令和5年度以降)	<指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針>						
	1	<p>1:各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2:予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p> <p>・「利用者の増加」が大きな課題ではあるものの、「ソーシャルディスタンスを確保しつつ今以上の学生数を収容でき、かつ高齢者に優しい会場」を確保することが非常に難しい。また学生の様々な要望を満たすことが難しく、結果、現在開校している総合福祉センターで会場を確保せざるを得ない状況である。</p> <p>・現在老壮大学は過渡期であり、様々な変更が発生している状況である。このことから、今後数年間は経過観察をする必要があるため、当面は現在の教室数、定員を維持して事業を継続していく方針である。</p>					